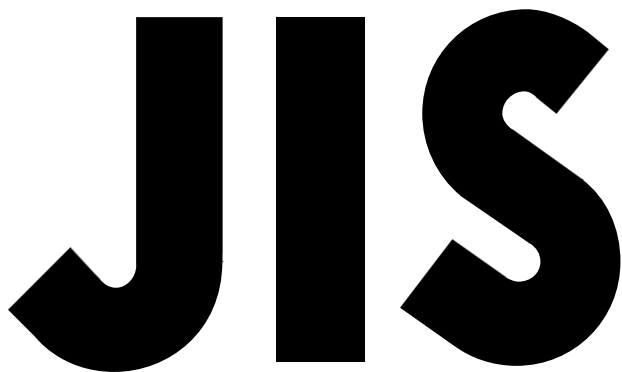




プラスチック—
実験室光源による暴露試験方法—第 1 部：通則

JIS K 7350-1 : 2020
(ISO 4892-1 : 2016)
(JPIF/JSA)

令和 2 年 11 月 20 日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒 井 信 介	横浜国立大学
(委員)	秋 山 進	株式会社デンソー（公益社団法人自動車技術会）
	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	市 川 直 樹	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	伊 藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	鎌 田 実	東京大学
	木 村 一 弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	木 村 たま代	主婦連合会
	佐 伯 誠 治	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	佐 伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	千 葉 光 一	関西学院大学
	寺 澤 富 雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	奈 良 広 一	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	西 江 勇 二	一般財団法人研友社
	久 田 真	東北大学
	福 田 泰 和	一般財団法人日本規格協会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	棟 近 雅 彦	早稲田大学
	村 垣 善 浩	東京女子医科大学
	山 内 正 剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	山 田 陽 滋	名古屋大学
	和 辻 健 二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 7.10.1 改正：令和 2.11.20

官 報 掲 載 日：令和 2.11.20

原 案 作 成 者：日本プラスチック工業連盟

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-5-2 アロマビル TEL 03-6661-6811)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会（部会長 酒井 信介）

この規格についての意見又は質問は，上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課（〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1）にご連絡ください。

なお，日本産業規格は，産業標準化法の規定によって，少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され，速やかに，確認，改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	3
4.1 一般	3
4.2 意義	3
4.3 実験室光源を用いた促進試験の利用	4
5 実験室における暴露装置に関する要件	5
5.1 放射照度	5
5.2 温度	6
5.3 湿度及びぬれ	9
5.4 暴露装置に関するその他の要件	10
6 試験片	10
6.1 形式、形状及び作製	10
6.2 試験片の数	11
6.3 保管及び状態調節	11
7 試験条件及び手順	11
7.1 暴露条件に対する設定値	11
7.2 試験片の特性測定	12
8 暴露期間及び試験結果の評価	12
8.1 概要	12
8.2 対照材料の使用	13
8.3 仕様書での結果の利用	13
9 試験報告書	14
附属書 A (規定) 試験片暴露領域内の放射照度の均一性を測定する手順	15
附属書 B (参考) 促進耐候性暴露又は促進耐光性暴露と実際における暴露との 相関の強さを低減させる要因	18
附属書 C (参考) 基準太陽分光放射照度	21
参考文献	23
解 説	25

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本プラスチック工業連盟（JPIF）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS K 7350-1:1995** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS K 7350 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS K 7350-1 第 1 部：通則

JIS K 7350-2 第 2 部：キセノンアークランプ

JIS K 7350-3 第 3 部：紫外線蛍光ランプ

JIS K 7350-4 第 4 部：オープンフレームカーボンアークランプ

プラスチック—実験室光源による暴露試験方法—

第 1 部：通則

Plastics—Methods of exposure to laboratory light sources— Part 1: General guidance

序文

この規格は、2016 年に第 3 版として発行された **ISO 4892-1** を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

1 適用範囲

この規格は、**JIS K 7350** 規格群で規定する暴露試験方法の選択、運用に関連する情報及び一般指針について規定する。また、プラスチックを実験室光源で暴露するときに使用する装置に関する一般性能要件についても規定する。この性能要件は、促進耐候性暴露及び促進耐光性暴露の試験装置の製造業者に向けたものである。

また、この規格は、促進耐候性暴露又は促進耐光性暴露から得られたデータの解釈に関する情報も記載している。暴露後のプラスチック特性に生じる変化を測定し、それらの結果を報告する手法に関する、より具体的な情報は、**ISO 4582** に記載されている。

注記 1 この規格で用いる“光源”という用語は、紫外放射、可視放射若しくは赤外放射又はこれらのいずれかを組み合わせたものを指す。

注記 2 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 4892-1:2016, Plastics—Methods of exposure to laboratory light sources—Part 1: General guidance (IDT)

なお、対応の程度を表す記号“IDT”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“一致している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS K 7100 プラスチック—状態調節及び試験のための標準雰囲気

注記 対応国際規格：**ISO 291**, Plastics—Standard atmospheres for conditioning and testing

JIS K 7144 プラスチック—機械加工による試験片の調製

注記 対応国際規格：**ISO 2818**, Plastics—Preparation of test specimens by machining

JIS K 7151 プラスチック—熱可塑性プラスチック材料の圧縮成形試験片

注記 対応国際規格：**ISO 293**, Plastics—Compression moulding of test specimens of thermoplastic